

ヘルパンギーナについて

どんな病気？

夏風邪の一種です。代表的な症状は強い喉の痛みで、喉が真っ赤になり喉の奥に小さな水ぶくれが数個から数十個できてきます。水ぶくれのところが痛くなるため、喉や口が痛いというのが特徴です。38 度以上の高熱が 2～3 日続くこともあります。

原因となるのはコクサッキーA 群というウイルスを代表する何種類かのウイルスです。多数のウイルスが原因となるので何回でもかかってしまう感染症です。かかった子供の咳やくしゃみでウイルスが飛び散り、それを他の子が吸いこんで発病します。



治療と予防



原因となっているウイルスに対する薬はないので、特定の治療法はありません。基本的には治療しなくても自然に治りますので対症療法が中心になります。熱・喉の痛みに対して解熱鎮痛剤を出すことが多いです。

予防接種はありません。予防法は風邪をひいている子供に近づかない、外から帰った後・食事の前・トイレの後などに手洗いをすることが最も大切です。また、咳をしている子供にはマスクをしてもらう(咳エチケットと言います)・咳をしている子供に近づくときはマスクをすることも大切です。

おうちでのケア

喉や口の中が痛いので食事や水分が摂りにくいことがあります。脱水状態にならないよう、水分の補給を十分に行いましょう。オレンジジュースのような刺激になるものは避けましょう。

食事はくちのなかがいいたいときはあまりかまずに飲み込める柔らかいものを与えます。

熱があっても特に具合が悪そうでなければ、入浴して汗を流すことは構いません。

病院へ行くタイミング

ヘルパンギーナはよくある夏風邪の一種ですが、夏は脱水になりやすいのでおうちの方が気をつけてあげましょう。

口の痛みが強くて水分が摂れないときは脱水症状になる恐れがありますので、医師の診察を受けて下さい。



元気がなくてぐったりしている時や高熱が続く時も、病院へ行った方がいいでしょう。

熱が下がり、喉の痛みもとれて、食事も含めて普通の生活に戻ってから登園・登校しましょう。(許可証が必要かどうかは施設により異なります。通っている施設に確認してください。)

中枢神経(脳や脊髄)の中に入りやすい性質があり、髄膜炎や脳炎をまれに引き起こすことがありますので、注意が必要です。

